

東京農工大学 農学部附属
広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター

令和6年度 活動報告（概要版）

目次

1. FS センター活動報告概要	1
2. FS 実験実習	2
3. 分野別活動概要	3
3-1) 資源・物質循環教育研究分野	3
3-2) 自然環境教育研究分野	5
3-3) 野生動物保護管理教育研究分野	7
3-4) 中山間地域農林業教育研究分野	9
3-5) 都市型農業教育研究分野	11

1. FS センター活動報告概要

農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター（FS センター）は、首都 100km 圏に配置された自然林、二次林、農地、都市緑地などの多様なフィールド（フィールドミュージアム：FM）を農学部の教育研究に活用するために、各 FM の維持管理を行うとともに、これらの教育利用、研究利用を推進している。FS センターは、資源・物質循環、自然環境、野生動物保護管理、中山間地域農林業、都市型農業の 5 教育研究分野から構成され、分野別に活動を行うとともに、FS 実験実習等の分野融合の教育研究活動を行った。

教育に関しては、FS センター独自で実施する FS 実験実習を、アラカルト方式（履修者が様々な分野の実習を組み合わせるプログラムを作成する）を採用して 4 年目となり、前年に引き続き多くの学生が履修した。この他、各部門、各 FM において、農学部の学生、地域の小中学生、一般市民を対象とした実習、公開講座などに積極的に取り組んだ。

研究に関しては、株式会社ジャパンインベストメントアドバイザーと農学部との共同研究として、FM 唐沢山において早生樹資源の有効活用に関する研究を継続して進めた。この他、ソーラーシェアリングに関する共同研究をはじめ、民間企業との産学連携研究を積極的に進めた。

施設整備に関しては、FM 多摩丘陵、FM 大谷山・草木等の整備計画について概算要求事項として申請されたが、残念ながら不採択となり、再度、検討することとなった。また、農学部戦略企画委員会において継続的に審議されてきた天神町地区の土地活用問題については、これまで誘致する事業として、乗馬クラブが検討対象とされてきたが、天神町地区の大部分が第一種低層住居専用地域に指定されていること、建物の建設コストなどが著しく高騰していることなどから、誘致は現実的ではないとの判断に至った。一方で、健康食品メーカーのフォーデイズから共同研究施設の寄付に関する申し出があり、天神町地区に設置する方向で検討が開始された。

産学官連携事業として、令和 6 年度に採択された「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」により設置される「西東京国際イノベーション共創拠点」邂逅館に設置される机、椅子などの材料として森林系 FM の木材を提供するとともに、本施設に入所が予定されているカフェレストラン「ANALOG」の銀座店、代々木上原店に共創拠点オープンに先行して農場産の野菜、乳酸菌飲料などの提供を開始した。また、大学創立 150 周年記念事業の記念品としてハチミツなどの農産品や、記念品の材料として、森林系 FM の材を提供した。

組織整備については、長年の懸案であった技術職員の人件費のポイント化が認められ、令和 6 年度末に退職する農場の技術職員のポイントを使い、令和 7 年度中に新規採用をすべく検討を開始した。

2. FS 実験実習

FS センターの各 FM を活用して、生物多様性の維持・農業生産と資源の持続的利用・環境教育を基本テーマとする実験実習を実施した。各教員で 1 日～2 日間のコースを担当し、学生は合計 4 日間以上の内容を履修することとし、各コースとも 1 回あたりの履修者数の上限を 40 名とした。令和 6 年度の履修者数は、145 名となり、各コースの実施回数を 2～3 回とした。それに合わせて、TA 任用時間を当初配分（144 時間）に加えて、教務係・教育委員会に申請し、16 時間の追加配分を認めていただいた（合計 160 時間）。各コースの開講期間、場所は以下のとおりである。

履修ガイダンス： 4 月 12 日 12:00～12:30 オンライン開催（Zoom）

コース内容：

- 1) 森林毎木・環境調査 FM 多摩丘陵・FM 府中 担当：吉田（智）・小林
・2 日間 1 回目：9/9-9/10、2 回目：9/11-9/12、
- 2) 大気環境実習 FM 多摩丘陵 担当：松田
・1 日間 1 回目：9/2、2 回目：9/3
- 3) 果樹の栽培管理 FM 府中 担当：伴
・1 日間 1 回目：7/29、2 回目：8/2
- 4) 作物の生産量の計量・推定 FM 府中 担当：本林
・1 日間 1 回目：9/25、2 回目：9/26
- 5) 乳牛管理 FM 府中 担当：杉村
・1 日間 1 回目：8/19、2 回目：8/20
- 6) 里山の環境と生物相 FM 府中 担当：鈴木、佐藤（俊）、小山
・1 日間 1 回目：9/6、2 回目：9/13
- 7) 和牛飼育と牧草栽培 FM 津久井 担当 中嶋
・1 日間 1 回目：8/2、2 回目：8/16

3. 分野別活動概要

3-1) 資源・物質循環教育研究分野

3-1-1) 活動概要

資源・物質循環教育研究分野では、東京西部郊外域に位置する FM 多摩丘陵を活用した教育研究を実施している。FM 多摩丘陵は、府中キャンパスから比較的アクセスが良く、教育研究に活用できる森林を有し、大気観測鉄塔も整備されている。

令和 6 年度は、環境資源科学科および地域生態システム学会の実習や卒業研究、修士研究、博士研究、さらには様々な研究プロジェクトで利用された。特に研究利用が多く、資源・物質循環分野にとどまらない幅広い分野において、学内だけでなく学外の研究者からも活発な利用がなされた。資源・物質循環分野の FM 多摩丘陵松田研究室に配属された学生は、連合農学研究科環境資源共生科学専攻 1 名、農学府物質循環環境科学プログラム 4 名、農学部環境資源科学科 4 名の計 9 名であった。令和 6 年度に FM 多摩丘陵を教育または研究の目的で利用した訪問者は、約 2300 名（人・日）であった。研究利用として、観測鉄塔を利用した大気－森林物質交換研究のほか、窒素循環、炭素循環、森林生態系、樹木光合成能力、木質バイオマス、大気浮遊マイクロプラスチックなど、幅広い分野の研究の実施または支援を行った。令和 6 年度に FM 多摩丘陵を利用した学外の大学・研究機関は、北海道大学、明治大学、東洋大学、東京農業大学、北里大学、明星大学、東京薬科大学、埼玉県環境科学国際センターであった。

さらに、資源・物質循環分野の研究活動として、FM 津久井において大気－草地間反応性窒素交換の研究、タイ国ナコンラチャシマ県サケラート環境調査所において大気－熱帯林反応性窒素交換の研究（科研費国際共同研究加速基金・海外連携研究）を実施した。また、本学と株式会社ジャパンインベストメントアドバイザーとの共同研究である「早生樹資源の有効活用によるカーボンニュートラル社会と林業再生実現」への貢献として FM 唐沢山の早生樹植林域において気象観測を行った。

教育研究利用以外では、FM 多摩丘陵において、桜ヶ丘公園サービスセンター「長沼・平山城址公園を歩こう」企画、株式会社やまびこの緑化関連機械の実習試験、株式会社野生動物保護管理事務所の野外社員研修を受け入れた。

3-1-2) 実習・公開講座・地域貢献事業

実習（FS 実験実習を除く）：

- ✓ 環境資源科学実習 A（梅澤、半、松田）
- ✓ 環境資源科学実験 IV 地学実験（梅澤）
- ✓ 樹木学実習（小池、赤坂、小林）
- ✓ 地域生態システム実習（加用、鈴木）
- ✓ 森林保護・樹木医学実習（吉田、小林）

地域貢献事業：

- ✓ 桜ヶ丘公園サービスセンター「長沼・平山城址公園を歩こう」企画の受入れ
- ✓ 株式会社やまびこ「緑化関連機械の実習試験」の受入れ
- ✓ 株式会社野生動物保護管理事務所「野外社員研修」の受入れ
- ✓ 環境省・日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター「大気モニタリングデータ解析ワーキンググループ」座長（松田）
- ✓ 環境省・エックス都市研究所「持続可能な窒素管理に関する国内行動計画検討会」検討委員
- ✓ 埼玉県環境科学国際センター研究審査会委員

3-1-3) FM 別事業・管理

<FM 多摩丘陵>

これまで同様、令和6年度も教育・研究に関する多くの利用がなされた。施設全般の日常管理・運営のために非常勤職員（技能補佐員）1名（週3日）を雇用するとともに、実験室等の管理・運営のために非常勤職員（産学官連携研究員）1名（週1～2日）を雇用して、施設の教育研究利用を円滑に進めた。また、客員准教授（東洋大学・反町篤行氏）を非常勤講師として雇用して、分野の教育研究を充実させた。

また、令和2年度頃から多摩地域で被害が拡大した森林病害虫（カシノナガキクイムシ）によるナラ枯れの被害を把握し、ヘルメットの着用等、利用者への注意喚起を行った。

さらに、老朽化した研究棟改修のため、令和8年度施設整備概算要求の検討を進めた。

3-2) 自然環境教育研究分野

3-2-1) 活動概要

自然環境教育研究分野では、持続的な木材生産体系を教育研究に活かすことに加え、森林の生物多様性について長期の研究が進められるよう、各森林系 FM の基盤を整備してきた。FM 唐沢山を里山型の都市近郊林として、FM 大谷山と FM 草木を人工林の生産体系の主力として、FM 草木と FM 秩父を豊かな自然の深山型の森林として、森林系 FM を舞台に循環型の資源活用と生物多様性に関する教育研究を実施している。

自然環境教育研究分野では、令和 6 年度の利用者数が、FM 大谷山・FM 草木で年間 835 名（人・日）（令和 5 年 825 名、令和 4 年度 743 名、令和 3 年度 115 名、令和 2 年度 66 名）、FM 唐沢山で 910 名（人・日）（令和 5 年度 1346 名、令和 4 年度 771 名、令和 3 年度 611 名、令和 2 年度 328 名）であった。

研究面では、FM 唐沢山におけるユーカリ育林や FM 草木におけるバイオマス有効活用のための木質チップ研究など、演習林における複数の研究プロジェクトの実施および支援を行った。また、「2024 年度 陸域炭素収支算定に関する高精度バイオスマップ等の整備手法の開発と検証」における調査地の一つとして、FM 草木が選定され、FM 草木における長期樹木モニタリングデータおよびそれらの位置情報データを提供した。FM 大谷山および FM 草木では、森林の立体構造やバイオマス量の把握を目的として、国際航業株式会社による航空機 LiDAR 計測を実施し、高精度な森林リモートセンシングデータの取得を行った。

教育面では、野生動物管理教育センター主導によるリカレント教育である社会人対象の実習を前年度から引き続いて行っただけでなく、新たに高校生対象の実習（GX サイエンスキャンプ、11/03～11/04）を実施した。また、2024 年 12 月には、群馬県みどり市と東京農工大学大学院農学研究院との包括連携協定が締結され、演習林がその活動の拠点のひとつとなることが示された。

社会との連携活動の一環として、府中キャンパスの「西東京国際イノベーション共創拠点」邂逅館の 1 階のカフェテリアスペースに設置予定の本学農学部同窓会寄贈の机・椅子、および無印良品 東京農工大学府中キャンパス店のリサイクルボックスの材料として、森林系 FM の針葉樹・広葉樹素材を販売した。また、大学創立 150 周年記念事業の記念品の材料として、演習林の材を提供した。

管理運営面については、5 年後に迎える現地採用職員退職に伴う、FM 秩父の存続について、FS センター内で廃止の方向で進めることが承認された。

3-2-2) 実習・公開講座・地域貢献事業

実習（FS 実験実習を除く）：

- ✓ 育林学実習（Rn）：FM 草木（戸田浩人、崔東寿）
- ✓ 樹木学実習（Rn）：FM 草木（小池伸介、赤坂宗光、小林勇太）
- ✓ 山地保全・砂防計画学実習（Rn）：FM 草木（白木克繁）

- ✓ 森林保護・樹木医学実習 (Rn) : FM 草木 (小池伸介、小林勇太)
- ✓ 森林生産システム学実習 (Rn) : FM 唐沢山 (岩岡正博、松本武)
- ✓ 森林計画学実習 (Rn) : FM 草木 (加用千裕、平原俊)
- ✓ 森林実習 (En) : FM 草木 (半智史、吉田智弘、小林勇太)
- ✓ 農学部特別講義 I 森林保全対策演習 : FM 草木 (高田隼人、諸澤崇裕)
- ✓ リカレント教育森林保全対策演習 : FM 草木 (高田隼人、諸澤崇裕)
- ✓ 山地測量学実習 (Rn) : FM 唐沢山 (白木克繁)

地域貢献事業 :

- ✓ 東京都教育委員会主催「令和 6 年得意な才能を伸ばす教育 (理数)」(吉田) : 講師担当
- ✓ 栃木県佐野市公開講座「子ども樹木博士」開催 (小林) : 東京農工大学と栃木県佐野市の地域連携協定に基づく「とちぎの元気な森づくり支援事業」の環境教育プログラム
- ✓ 東京都府中市環境審議会委員 (吉田)

3-2-3) FM 別事業・管理

<FM 草木・FM 大谷山>

FM 草木では、日本長期生態研究ネットワーク (JaLTER) 関連の主要な調査地である 7 林班を小班に設けた固定調査地において、樹木動態および落葉落枝量のデータを収集・計測 (2005 年～) した。長期モニタリングの支援として、ハリガネムシ調査 (FM 草木、2016 年～) を行った。FM 草木 6 林班に小班において植栽を、5 林班ほ小班において主伐・素材生産を行った。「2024 年度陸域炭素収支算定に関する高精度バイオマスマップ等の整備手法の開発と検証」における調査地の一つとして、FM 草木が選定され、FM 草木における長期樹木モニタリングデータおよびそれらの位置情報データを提供した。

FM 大谷山では、長期モニタリングの支援として、水文・水質観測 (FM 大谷山、1978 年～) を行った。ただし、2024 年 8 月末に生じた集中豪雨のため、水文・水質観測堰堤が破損し、その修繕が終了するまで、観測が実施できない期間が生じた。

<FM 唐沢山>

株式会社ジャパンインベストメントアドバイザー (JIA) との共同研究のため、FM 唐沢山において植栽した早生樹 (ユーカリ等) の成長や炭素蓄積量についての調査研究をサポートした。「地域中核大学イノベーション環境強化事業」の予算によって、油圧ショベル (8t クラス) が更新された。

<FM 秩父>

モニタリング業務として、毎月、気象データなどの記録回収を行った。また、FS センター会議および FS センター運営会議において、FM 秩父の廃止について承認された。

3-3) 野生動物保護管理教育研究分野

3-3-1) 活動概要

附属施設の役割りとして重要な実習教育については、FS 実験実習以外に 7 科目の実施を担当した。同じく開設が期待されている公開講座については、継続開催の 3 講座（子供身近な動物教室、実演・実習 高校生のための野生動物学講座、獣医さんごっこで優しさづくり-幼稚園ミニ遠足-）を担当した。活動基盤としては動物園や教育機関と連携した日常運営の充実が不可欠であり、診療施設の管理には任期 1 ヶ月未満の非常勤職員（いわゆる出面アルバイト）を雇用して対応した。共同獣医学科改組につき必要な対応を行った。

3-3-2) 実習・公開講座・地域貢献事業

実習（FS 実験実習を除く）：

- ✓ 地域生態システム学実習Ⅱ（鈴木馨）後期集中 1 単位（横浜市立よこはま動物園ほか）
- ✓ Rn 生物学実験（金子・鈴木馨）前期分担 1 単位（動物の形態）
- ✓ Vn 生物学実験（金子・鈴木馨）前期分担 1 単位（頭骨の観察ほか）
- ✓ 実験動物学実習（田中あかね・鈴木馨ほか）後期分担 1 単位（動物の取り扱いほか）
- ✓ 比較行動学実験・実習（鈴木馨・澤・大倉）前期集中 1 単位（多摩動物公園ほか）
- ✓ 野生動物保全学実習（金子・鈴木馨・宇野）前期集中 1 単位（FM 津久井ほか）
- ✓ 生態系保全学 I b（鈴木馨）前期一部集中 1 単位（横浜市繁殖センターほか）

公開講座：

- ✓ 子供身近な動物教室（鈴木馨）：主催
- ✓ 実演・実習 高校生のための野生動物学講座（鈴木馨・佐藤俊・小山）、主催
- ✓ 獣医さんごっこで優しさづくり-幼稚園ミニ遠足-（鈴木馨）、主催

地域貢献事業：

- ✓ 東京都野生鳥獣保護協力大学
- ✓ 横浜および川崎市立動物園との日本産野生動物の保護治療に関する共同研究
- ✓ 幼稚園・小学校飼育動物ドクター
- ✓ 東京農工大学と地域を結ぶネットワーク事業
- ✓ 府中市立府中第九小学校特別支援学級・動物とのふれあい体験
- ✓ 明星小学校・動物とのふれあい体験

その他：

- ✓ 感染症未来疫学研究センターとの共同事業（FM 府中および津久井）
- ✓ 共同獣医学科・動物行動学研究室の協力による生物多様性の教育と研究
- ✓ 国立科学博物館・東京大学などの研究者とのカラスの博物学研究（科博館長から感謝状）

- ✓ NPO 生物多様性研究所あーすわーむとの共同研究、くくりわなによる中型哺乳類錯誤捕獲の検案研究－動物福祉の観点から－
- ✓ 動物体験と植物栽培を組み合わせた心の種まき運動（科学研究費助成事業・基盤研究(C)（一般））

3-3-3) FM 別事業・管理

<FM 津久井>

感染症未来疫学研究センターとの共同事業およびそれらにかかわる客員教授人事等についてはセンター長預かり事項として整備した。

<FM 府中>

東京都野生鳥獣保護協力大学については、事業を継続している。横浜および川崎市立動物園との共同研究は、教育研究上必要な症例を安定的に確保し、活発な活動を展開している。教育研究成果も豊富である。幼稚園・小学校飼育動物ドクターは継続事業で、好評である。診療のみでなく、幼稚園などと活発に交流している。

3-4) 中山間地域農林業教育研究分野

3-4-1) 活動概要

学長ビジョンの実現を目的として、R3年度にFM津久井の和牛飼育に関する構想を策定し、その内容に沿ってR4年度10月に和牛（繁殖雌牛）の飼養を開始した。FM津久井においては、未利用地の畜産活用、自給飼料・放牧での和牛生産が大きなテーマであり、和牛の飼養開始に向けて、寒地型牧草のイタリアンライグラス、暖地型牧草のスーダングラスを一定量栽培し、粗飼料として牛の飼養管理に活用した。また野草も最大限活用し、低コストでの運営に努めた。実際の圃場での牧草栽培・集草・保存方法等に関しては未知な部分も多く、試行錯誤の中で一定量の牧草を栽培し、昨年度購入したロールベラー、ラップマシーン等を用いて和牛飼育に使用可能な粗飼料の収量を増加させた。また、今年度はFM津久井にて4頭の分娩があり、加えて3頭の出荷を初めて行い、一定の収入を得ることができた。また自前で堆肥舎・餌場・水場設備を構築するだけでなく、多岐にわたる修繕業務及び重機のメンテナンス業務を自前で行い、低コストにて津久井の運営を可能にした。牛舎においても利用できなかったスペースを改築し、牛舎内の利用可能面積を拡大した。「地域中核大学イノベーション環境強化事業」においても、FM津久井にユーカリの植林に向けた圃場の整備をR4年度に実施し、R6年度はその成長管理に関する検証を行った。

3-4-2) 実習・公開講座・地域貢献事業

実習（FS実験実習を除く）：

- ✓ AIMS および学部共通専門科目（国際農学科目）「Introduction to Charcoal Application」（炭利用学入門）の実習（及川洋征）
- ✓ 野生動物保全学実習（鈴木馨）
- ✓ FS実験実習（和牛飼育と牧草栽培（FM津久井））
- ✓ 帝京科学大学の学生に対する牛を用いた動物介在活動実習

研究：

- ✓ 大気－草地間の物質交換メカニズムに関する研究
- ✓ 牛に対する野草の嗜好性試験に関する研究
- ✓ 牛の放牧分布に関する研究
- ✓ 放牧家畜の生理生態からみた草地植生の多様性保全に関する研究
- ✓ ユーカリの植林試験に関する研究
- ✓ 付着種子散布を介した動物-植物種間関係の解明

地域貢献事業：

- ✓ つるかごサークルによるアケビつる・ツルウメモドキ・チカラシバの採取

3-4-3) FM 別事業・管理

中山間地域農林業分野について、FM 津久井の通常管理運営に加えて圃場整備・牧草栽培・放牧地整備等の業務を 1 名の常勤技術職員が担当した。今年度、FM 津久井にて 4 頭の分娩があり、FM 府中（牛舎）においても受精卵移植によって和牛子牛を生産しており、研究・教育での使用に向けた着実な牛の増頭に関連する業務を推進した。また、今年度 3 頭の牛を出荷し、一定の収入を得ることができた。さらに放牧地の継続的な整備により、放牧エリアを 2.5ha 程度まで拡大し、放牧飼育を継続して実施した。今年度、和牛の飼養管理及び草地・放牧地整備に注力したため、生産物販売に向けたゆずの収穫は行わなかった。

3-5) 都市型農業教育研究分野

3-5-1) 活動概要

都市型農業教育研究分野では、農場の圃場および施設を利用して、水稲、畑作物、果樹等の栽培技術、乳牛の飼養技術・繁殖技術、害虫制御技術等に関するテーマについて、専任教員が指導する学部、修士課程、博士課程の学生が研究を実施した。また、学内外の研究室・機関との共同研究や圃場試験等に対して支援を積極的に進めた。

FM 府中および FM 本町を利用した実習としては、生物生産学科（2 科目）、応用生物科学科（1 科目）、地域生態システム学科（2 科目）、獣医学科（3 科目）の実習科目が開講された。

地域貢献に関しては、府中市内の NPO 法人が実施する民間市民農園事業を支援した。

都市型農業教育研究分野における研究

○卒論・修論など

- ・ブルーベリーの低投入持続型栽培技術の確立に関する研究
- ・ダイズ圃場への大麦リビングマルチの導入によるハスモンヨトウとその天敵の動態に関する研究
- ・水稲用育苗箱処理剤の生体影響評価に関する研究
- ・多収性水稲品種のころび型倒伏抵抗性に関する研究
- ・ダイズ湿害対策（心土破碎）に関する研究
- ・マコモと黒穂病菌の共生関係に関する研究
- ・乳牛の繁殖に関する研究

○学内外研究者との共同研究

- ・多収性水稲品種の直播栽培技術に関する研究
- ・ICT 技術を利用した各種作物の栽培支援技術の開発（NEC 共同研究）
- ・大豆の湿害対策に関する研究
- ・マコモと黒穂病菌の共生関係に関する研究（植物病理研、遺伝子実験施設との共同研究）
- ・牛受精卵生産技術に関する研究（PIXTURE との共同研究）
- ・水稲用育苗箱処理剤の生体影響評価に関する研究
- ・リモートセンシング技術を活用したブドウの栄養診断に関する研究
（株エクシオテックとの共同研究）
- ・発電用太陽光パネル下の栽培環境の解明とスマート農地の確立に関する研究
（株クボタとの共同研究）
- ・5-ALA と乳牛の繁殖性との関係性に関する研究（ネオファーマとの共同研究）
- ・非農地におけるナガエツルノゲイトウに対する化学除草剤利用に関する環境影響評価に関する研究

3-5-2) 実習・公開講座・地域貢献事業

農場関連実習（FS 実験実習を除く）：

- ✓ 生物生産学科フィールド実験実習（本林 隆，伴 琢也，杉村智史，非常勤講師 1 名）
- ✓ 生物生産学科農業分野専攻実習（本林 隆，伴 琢也，杉村智史，非常勤講師 2 名）
- ✓ 生物生産学科学外（農家）実習（本林 隆）
- ✓ 応用生物科学科農場実習（本林 隆，伴 琢也，杉村智史）
- ✓ 地域生態システム学科農場実習 I（本林 隆，伴 琢也，杉村智史）
- ✓ 地域生態システム学科農場実習 II（本林 隆，伴 琢也，杉村智史）
- ✓ 地域生態システム学科地域生態システム学実習 I（本林 隆，伴 琢也，杉村智史）
- ✓ 地域生態システム学科地域生態システム学実習 II（本林 隆，伴 琢也，杉村智史）

公開講座：

- ✓ ブルーベリーのお話と収穫体験（伴・乃万）
- ✓ ナシのお話と収穫体験（伴・乃万）
- ✓ 甘ガキのお話と収穫体験（伴・乃万）

地域貢献事業

- ✓ 民間市民農園事業支援（乃万・本林・伴）

3-5-3) FM 別事業・管理

<FM 府中>

<野菜>

収入額は約 187 万円であった。新たに西東京国際イノベーション共創拠点内にオープンする農食レストランに提供する野菜を試作した。実習では生物生産学科 2 年生の専攻実習に、新たにアクティブラーニング手法を用いた圃場を設け、自主性及び専門性の向上を図った。

<畑作>

特定研究圃場の運営、管理や研究支援業務は滞りなく行えた。カンショ栽培実習は概ね好評であった。飼料作物の収量はほぼ例年通りであった。ソルゴーは一部倒伏被害があった。ダイズに関しては増収であった。飼料としてデントコーン、イタリアンライグラス、味噌原料としてダイズを栽培した。収量はほぼ例年通りであった。

<果樹>

ブルーベリー、ナシ、カキ、キウイの栽培と養蜂を中心に教育研究活動を展開し、生産物は生果販売と加工用に供した。経済樹齢を経過したナシ、キウイの収量が著しく低下しており新型樹形のブドウを補植した。過去に採択されたフロンティア農学教育研究機構機能強化経費対象事業を積極的に推進し、150 周年事業へのハチミツの提供、剪定残渣のチップ化を実施した。その収益

を活用し、清掃用品、除草用品、文房具を購入した。

<畜産>

受精卵事業として PIXTURE と共同研究を行った。生産物販売について 年間総乳量 95,397kg（昨年から微増）で、森永乳業および協同乳業への販売および乳酸菌飲料、アイスクリームに供した。また、黒毛和種 1 頭、ホルスタイン雄 1 頭、交雑種 2 頭、計 4 頭の子牛を販売した。

<農畜産加工>

学内イベント（特に、学科説明会と学園祭）での販売を強化した結果、値上げによる需要低下分を補っての収入増となった。明星高等学校との包括連携協定を締結し、協働事業として府中市フェアトレードフェスに参画した。

<FM 本町>

実習としては生物生産学科 1，2 年生の水稲、水田関係の実習を担当した。研究支援業務としては、作物学研究室をはじめ、6 研究室の卒論、修論にかかわる実験の支援を行った。また、農水省からの受託研究として 2 件、民間企業からの受託研究を 1 件、請け負って実施した。また、令和 5 年度から府中市内の野口酒造店が醸造する日本酒の原料として、FM 本町で生産した「さくら福姫」1.5t を売り渡した。この他、マコモタケをはじめ、各種ジャガイモ、サトイモなどの生産、販売を行った。